

## 教 育 委 員 会 会 議 録

令和 5 年 1 0 月 定 例 教 育 委 員 会	
開 会 日	令和 5 年 1 0 月 2 4 日 (火)
開 会 時 間	午後 2 時 3 0 分～午後 3 時 1 7 分
開 会 場 所	佐賀市大財別館 4 - 3 会議室
出 席 者	委 員 中村教育長                      堤 委員                      小川委員 撫尾委員                      鳥飼委員                      長崎委員
	事 務 局 大松教育部長 吉次教育部副部長兼学事課長 青柳教育部副理事兼学校教育課長 大塚教育部副理事兼社会教育課長 古田図書館長 川副教育総務課副課長兼総務係長 志津田教育総務課主幹兼教育政策係長
提 出 議 案	第 1 7 号議案 佐賀市社会教育委員の委嘱について 第 1 8 号議案 令和 5 年度「佐賀市教育委員会表彰」被表彰者及び「佐賀市教育委員会感謝状」被贈呈者について
協 議 事 項	な し
報 告 事 項	な し
欠 席 委 員	0 名
傍 聴 者 数	0 名
報 道 関 係 者	0 名
会 議 録 作 成 者	教育総務課副課長      川副 清隆

## 日程1 開会の宣告

(中村教育長)

皆さんこんにちは。これより佐賀市教育委員会10月定例会を開きます。

先週は総合教育会議が開かれましたけれども、皆様からたくさんのご意見をいただきありがとうございます。時間の関係でばたばたとしてしまって申し訳なかったんですが、各委員さん方からの貴重なご意見は市長の今後の教育に対する考え方や、2040年という先のことにはなりますけれども、それに向けての教育施策をどう考えていくのか、市長部局と教育委員会がどう連携していくかという、その一助になったのではないかと思います。

また、後で報告いたしますが、先週、私は九州都市教育長協議会で沖縄県名護市に行っていました。とてもいい天気だったんですが、こちらとは気温が約10度違って、昼間は30度以上、夜も20度以上あるので、ほとんどの人が半袖でしたし、セミがやかましく鳴いており、やはり亜熱帯の沖縄の気候は九州とは違うなと思いました。その都市教育長協議会ではいろいろなお話を聞かせていただいてとても参考になりましたし、教育長さん方といろいろな情報交換ができたことは貴重な経験になりました。これを次の教育長にも伝えて、ぜひまた生かしていければと思っております。

それでは、委員会に入ります。

本日は、6人中6人の委員が出席しておりますので、適法に委員会が成立いたしております。

ここで会議の非公開と日程についてお諮りいたします。

本日の提出議案は2件ございますが、そのうち第18号議案『令和5年度「佐賀市教育委員会表彰」被表彰者及び「佐賀市教育委員会感謝状」被贈呈者について』は、会議を公開することにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるため、佐賀市教育委員会会議規則第13条に基づきまして非公開とさせていただきます。と思っております。

さらに、非公開とした第18号議案の審議を日程5の「その他」の後とし、公開事項を先にご審議いただきたいと思っておりますが、ご異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、そのようにさせていただきます。と思っております。

## 日程2 会議録の承認

(中村教育長)

続きまして、日程2、会議録の承認です。事務局より会議録の報告を求めます。

(川副教育総務課副課長兼総務係長)

9月26日の定例教育委員会の会議録につきましては、先日、皆様にお送りしたとおりとなります。よろしくお願いたします。

(中村教育長)

報告は終わりました。報告内容につきまして質疑はございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議がないようですので、会議録は報告のとおり承認いたします。

## 日程3 教育長報告

(中村教育長)



となって子ども会と一緒にあって取り組まれるというもので、学校ではなく個人やグループ、地域の団体、例えば野球部や空手のグループがチームをつくってこれに出場されていたというのと、グループ対抗で参加した方が投票するという形で、一番票が多かったところが優勝という形でした。また、食べ物を作って販売するという取組で7チーム参加があったんですけども、焼きそばやたこ焼きがあったり、ちくわの中にポテトを入れて焼いたものなど、いろいろなものがあったりとても楽しい取組でした。子どもたちはほとんど作っていませんでしたが、販売や呼び込みなどを一生懸命頑張っていて、駅前交流広場がとてもにぎわっていました。結果は今日聞いたんですが、思斉小学校グループのスープとシュウマイと一緒にいった料理がナンバーワンだったそうです。すばらしい取組でしたので、来年度もぜひやりたいということですが、費用がかなりかかるということで、その点がちょっと心配だというお話をされていました。

続いて大きな2つ目は、先ほどお話をしました校長中間ヒアリングについて気づいたことを幾つか書いています。細かくは時間の関係で省かせていただきますけれども、大きくここに書いています4つのことを校長先生方に校長会でもお話をしました。

1つ目は、よさを見つけて称賛する手だてをとってほしいということです。学校では子どもたちのよさを見つけて放送したり掲示したりということもされていますので、先生方のよさもどんどん校長先生方に見つけて本人にお伝えくださいということを伝えました。2つ目は、授業改善に積極的に取り組んでいる学校が多いので、これがもっと広がればと思っています。特に中学校では、校長会が中心となって行っている『学び合い』の独自の研修会が、今非常に盛り上がっているそうです。これがもっと広がって全ての先生方に伝わっていけばいいなと思っています。3つ目は、若手職員をどうしていくかということです。若手がとても増えている中、一部の学校では若手職員のための自主研修会を行っているところもありました。また、ベテランや中堅職員がメンターになって、そういう職員に教えるような、そういう取組をされているところがありました。いろんな手だてをご紹介して、先生方がさらに力量を高めていただければと思いました。最後の4つ目は、身体的な負担を確認して働き方改革を進めることが重要だと思っています。メンタルに不安を抱えている方も多いため、教職員一人一人の状況を考えたヒアリングや声掛け、周りの先生方の協力をお願いしたいということです。

大きな3番目は、私教育長になって3年間に取り組んだことをまとめさせていただきました。1つ目は、教育長になったときからずっと「子どもの笑顔が輝くまち佐賀」をつくりたいと申し上げてまいりましたので、このことに重点を置いて取り組んでまいりました。なかなかうまくいかないこともありましたが、これはぜひ次にもつなげていただければと思っています。

2つ目は、私はまなごし運動とコミュニティ・スクールの設置の促進というのはしっかりやってきたつもりです。なかなかうまくいかないところもありましたが、徐々に浸透してきたかなと思っています。まなごし運動をもっと身近なものとして考えていただきたいし、コミュニティ・スクールが先生方にとって大変な取組ではなく、かえって先生方の負担を減らして子どもたちをみんなで支えていくという取組になりますということです。今、着実に設置校が増えていますので、これを最終的には全校に増やせたらと思っています。

3つ目は学校にできるだけ足を運ぶということです。私は学校だけでなく、いろいろな地域行事にもできるだけ参加させていただきました。地域の方とお話しすることで、「教育長、よう来てくれたね」と言ってもらえました。そこで地域の方の思いをお聞きし、それを教育施策に生かすことができましたので、やはりそういう場というのはとても大切だなと思っています。

最後は情報発信です。今はSNSの時代です。ホームページや市報での掲載ではなかなか伝わらないので、LINEやメールなどを活用しながら取り組んで情報発信に努めてまいりました。各学校でもそれを生かしてもらったらと思っています。

ここまで長くなりましたが、最後に九州都市教育長協議会の内容の中から、文部科学

省の初等中等教育の学校デジタル化プロジェクトチームリーダーの武藤さんという方が、国会の関係でオンラインでのお話だったんですが、非常に興味深い内容がでしたので、お伝えしたいと思います。ページが多いので少し端折って話をしたいと思います。学習指導要領の前文にある一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識し、他者を価値ある存在として尊重して多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越えていく。そして、最終的には持続可能な社会の創り手となるという、このことをこの改革でやっていきたい。そのためのGIGAスクールなんだというお話がありました。ただ単にコロナがあったから、それで予算をつけたからではないということです。このことがまずあって今やっているんだということをぜひ考えてほしいとお話しになりました。これは、人口減少社会や少子・高齢化、そしてグローバル化にもつなげられるし、多様性などにも、このデジタル化をうまく活用することでつなげていけるんじゃないかというお話でした。その後は資料たくさんありますけれども、少子・高齢化がどんどん進んでいるということ。そして、多様性を学ぶ上で学校が果たすべき役割はとて大切になってきているということ。ただ、子どもがどんどん減ってくると、子どもの周りに多様な他者がいないという状況が起きている。7ページにありますように、この20年で3世代同居の割合は半減し、核家族化が12ポイント、ひとり親世帯は40ポイントも増加している。こういう状況で、親と自分しかいない。親も時にはひとり親しかいない。そして、そのひとり親も仕事でほとんど家にいない、そういう家庭が増えてきていて、周りに他者がいないような子どもたちが増えてきている。だから、そのために、このGIGAスクールなどをうまく活用しながら、または学校の統廃合などにより、多くの人と関われるような場が必要なんだというお話でした。

そして、次のページの左下になりますが、外国人の割合が2067年には欧米並みになるというふうなことでした。日本人の大体10%が外国人になる。そんな時代が来るということなので、やはり多様性ということをしつかりと学んでいって、そういう子どもたちとコミュニケーションを取れるような力を身につけていかないと立ち行かなくなっているというお話でした。また、デジタルイゼーションというところが次のページにありますけれども、今後、仕事の在り方が変わってきて、ルーティーンをするような仕事というのはほとんどICTが行うようになるため、人間でしかできない力をどう高めていくかということがとても重要だということで最後お話がっています。

この変化の早いスピードの時代にやらなければいけないことはたくさんあって、ただし、人間の人生というのは100年時代なので、65歳で定年になっても、まだあと35年も生きるわけです。ですから、その長い人生をどう歩んでいくかということを考えるためにも、今子どもたちにどんな力を身につけさせるかということを考えなければいけないということです。また、日本で言えば終身雇用制というのがどんどんなくなっていく時代になりますので、やっぱり自分の興味を持ったり、自分の力を試したりするような、そんな社会にどんどん変わっていくんじゃないかということです。次の11ページにありますけれども、2022年の新入社員が今の会社で何年働きますかというアンケートを取ったら、10年以内に変わりたいと考えている若者が51%いるんですね。だから、終身雇用の考え方がなくなっているということです。そのためには、生涯にわたって学び続ける意欲と習慣が大切になりますので、子どものうちにそういう資質や能力を身につけないといけない。就職したから終わり、大学に入ったから終わりじゃなく、興味を持ったものを学び続けていくような、そういうような子どもたちを育てていくことが今後の学校教育の大きな役割になるんじゃないかというお話がありました。

随分長くなって申し訳ございません、後の資料等をご覧いただければと思っています。結構厳しい内容の資料もありますけれども、そちらのほうは見ていただければというふうに思っております。

以上で報告を終わります。何か報告内容について質疑はございませんでしょうか。

〔なし〕と呼ぶ者あり〕

質疑がないようですので、教育長報告を終わります。

#### 日程4 提出議案

(中村教育長)

続きまして、日程4、提出議案です。

第17号議案『佐賀市社会教育委員の委嘱について』、事務局の説明を求めます。

(大塚教育部副理事兼社会教育課長)

では、資料の1ページをお願いいたします。第17号議案『佐賀市社会教育委員の委嘱について』でございます。まず、提案理由でございますが、社会教育委員につきましては、社会教育法第15条におきまして、「都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができる。」とされておりまして、「社会教育委員は、教育委員会が委嘱する。」と定められております。また、佐賀市社会教育委員条例第3条におきましては、「委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、教育委員会が委嘱する。」と定められておりまして、このような規定に基づきまして、この案を提出するものでございます。

次の2ページをお願いいたします。委嘱をお願いする委員の名簿でございます。現在、社会教育委員13名の任期が今年10月31日まででございます。学校、社会教育団体からの推薦や家庭教育の向上に資する活動を行う者から選出、公募等によりまして、新たに13名の社会教育委員を選任いたしております。

なお、委員定数は条例第2条の規定によりまして13人以内となっております。

具体的には、別紙の資料1ページをお願いいたします。ここに社会教育委員の名簿を掲載しておりまして、名簿の左側から氏名、性別、団体名、新任、再任の別を記載しております。13名のうち、学校教育、社会教育、家庭教育及び学識経験者から委員を12名、公募委員を1名選任いたしております。委員13名のうち新規の委員は5名でございます。その表でいきますと2番の佐賀星生学園の校長の加藤雅世子氏、6番のNPO法人佐賀県CSO推進機構の副代表理事の秋山翔太郎氏、8番の一般社団法人ヘルスサポーターズイノベーション代表理事の寺野幸子氏、12番の西九州大学短期大学部専任講師の大村綾氏、13番の公募委員の嶋津眞由美氏でございます。公募委員につきましては、9月1日号の市報とホームページにおいて募集いたしまして、4名の方に応募いただき、10月に作文と面接による選考を行い、決定いたしております。最後に、新委員の任期につきましては、佐賀市社会教育委員条例第4条の規定によりまして、「委員の任期は、2年とする。」となっております。つきまして、令和5年11月1日から令和7年10月31日までの2年間となっております。

説明は以上でございます。

(中村教育長)

今の説明につきまして、何かご質問ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、異議がないようですので、第17号議案につきましては原案のとおり承認いたします。

#### 日程5 その他

(中村教育長)

次は日程5、その他です。

何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、その他については終了いたします。

続きまして、先ほど申しました第18号議案ですけれども、ご承認いただいておりますので会議を非公開とさせていただきます。

傍聴者の方は退席をお願いいたします。

【非公開】

【公開】

(中村教育長)

それでは、最後になります。小川委員と私は11月4日をもって退任することになります。本日は最後の定例教育委員会となりますので、一言ご挨拶をさせていただきたいというふうに思います。

それでは、まず小川委員からよろしいでしょうか。よろしく申し上げます。

(小川委員)

失礼します。振り返れば、約5年半教育委員を務めさせていただきました。この間は、本当に私でいいんだろうかという疑問を抱きながらここに座っていましたので、大変失礼いたしました。まず、事務局の皆様には本当に一つ一つ丁寧に対応していただき、本当に感謝の一言です。本当にありがとうございました。

私が教育委員を務めたこの5年間だけでもいろんな変化が教育界にはありました。また、先日の佐賀市総合教育会議では、2040年を見据えた教育の在り方というテーマについて話をしましたが、この5年間のすごい激動を経て感じたことと、さらに13年後どうなっているんだろうということを思うと、本当に先が読めない世の中になるんじゃないかなということに思います。でも、それでも一つ一つ先を見据えた対応を地道にやっていくことは本当に必要性があるんじゃないかなと痛感しております。

今日、午前中は園訪問をしてきました。また、学校訪問もしておりますが、学校と園で幼保小の連携というのはなされております。佐賀市では幼保に関する業務は市長部局で行われていますが、幼保小の一貫した関連という意味で、もっと子どもたちに視点を当ててもいいんじゃないだろうかと思います。一人一人はかなりの仕事を抱え、激務の中で仕事は増えるばかりかもしれませんが、そういうことを常日頃から思っていました。人員を増やすことができなければ、教員に対する働き方改革がうまくいかないものかなということを考えております。

最後になります。子どもへのまなごし運動では少しお手伝いできたかなと思います。これからも子育てや支援の関係だけではなく、この流れで何かお手伝いできればうれしく思います。本当に長い間ありがとうございました。お世話になりました。(拍手)

(中村教育長)

私、小川委員さんにまずお礼を申し上げたいと思います。本日この会が始まる前、百崎前部長が来られていたんですけれども、小川委員さんに対して、委員になっていただくときに急に来ていただくことになったので、本当に申し訳なかったと、無理を言うようお願いしたのに、5年数箇月ずっと続けてしていただいて本当にありがたかったということをおっしゃっていました。

小川委員さんは、やはり幼児教育の立場や女子体育といった立場で、いろんな観点から適切にご指導やご助言をいただき、本当に私たちにとってもとても参考になることのできました。今回、退任をされるということですが、これからもいろんな場でご活躍いただいて、末永く佐賀市の教育に対してお力添えいただければと思います。本当にありがとうございました。

続いて私事になりますけれども、1期3年で今回退任ということになりました。教育

委員会に来るのは3回目だったんですけれども、通算11年関わらせていただきました。大したことはできず迷惑ばかりかけたと思いますし、教育事務所や県教委にはいつも苦口ばかりでご迷惑をお掛けしたのではないかと思います。自分なりに佐賀市だけでなく、佐賀県の子どもたちのために何が教育委員会としてできるのか、国や県と力を合わせてどういう方向に持っていったらいいのかということもいつも考えて自分なりの提言だったつもりではあります。国に対しては直接提言することはできませんでしたが、全国都市教育長協議会の要望書には、佐賀市の要望も何回も入れさせていただきましたし、非常にありがたく思っています。教育事務所や県の教育委員会にもいろんな提言をさせていただき、全てがうまくいくわけではありませんでしたが、取り入れていただいたことも幾つもありました。やはり言っていないと変わらないというのを感じた次第です。

皆様方には本当にご迷惑ばかりをお掛けしました。教育界は課題が山積していて、これをどう解決していくかというのが今の一番大きな課題になっているんですが、それを何一つ解決できないまま去っていく自分をふがいなく思っています。ただ、これからまた皆様方が頑張ってくださいるので、私としては一市民に戻って何かできること、お役に立てることがあったら自分なりに頑張っていけたらと思っています。

私はいつでも佐賀市教育委員会を応援しておりますので、これからもよろしくお願ひしたいと思ひます。3年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。(拍手)

それでは、何か言い漏らしとか付け加えとかはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、これで10月の定例教育委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

終了時間 午後3時17分